

會務報告

第 24 卷 第 2 號 昭和 13 年 2 月

役員會記事

第 22 回理事會 (昭. 12. 12. 20.)

出席者；大河戸會長、新井副會長、關、沼田、榎木各理事、藤井眞透君、小野寺庶務主任、朝倉會計主任

報 告

1. 土木技術者相互規約調査委員會に於て決定せる土木技術家の信條及實踐要項(別紙省略)を報告せり、尙信條に就き不日理事及委員、會同協議することに申合せたり。
2. 日本工學會よりケルビンメダル受賞候補者として本多光太郎博士を推薦せる旨通知ありたり。
3. 日本工學會に設立せるメートル法専用實施促進委員會第 1 回議事を報告せり。

議 事

1. 本會より北支及中支に於ける土木計畫に關する調査員派遣の件に就き協議し常議員會に諮ることゝせり。
2. 土木學會防空施設研究委員會委員に藤後定雄君中澤政次君を追加依頼することゝせり。
3. 東北支部管内會員 50 名の増加を図るため東北支部に對する入會金補助期間を昭和 13 年 3 月末日まで延長することゝせり。
4. 1 月中役員會及委員會開催日別紙(省略)の通りとす。
5. 大谷昇君外 3 名を會員に、安藏虎四君外 40 名を准員に、赤澤稔君外 61 名を學生員に入會を承認し准員井上五郎君外 1 名を會員に、學生員井口敬太郎君外 2 名を准員に転格を承認せり。

第 23 回理事會 (昭. 13. 1. 10.)

出席者：大河戸會長、辰馬、新井兩副會長、宮本、金子、關、沼田、榎木各理事、小澤常會員金子恆君、太田尾廣治君、小野寺庶務主任朝倉會計主任、糸川編輯主任

報 告

1. 北海道支部長に吉町太郎一君當選せられたるに依り之を依頼せり。
2. 土木學會文化映畫委員會の中間報告としてニユ

ース部の發動に關し別紙(省略)の如く報告ありたり。

3. 關西支部第 9 回役員會議事を報告せり。

議 事

1. 通常總會を昭和 13 年 2 月 14 日開催することゝせり。
2. 通常總會順序及議案次の如く決定せり。
 - (1) 昭和 12 年度事業報告
 - (2) 昭和 12 年度決算報告
 - (3) 役員選舉の結果報告並に紹介
 - (4) 土木學會規則改正に關する件
 - (5) 応召會員に對し特定期間會費負擔免除の件
 - (6) 土木賞牌贈呈
 - (7) 會長講演

總會終了後有志晚餐會開催(會費 2 円 50 錢)

3. 北海道支部昭和 12 年度收支豫算別紙(省略)の通り承認することゝせり。
4. 關西支部内規第 1 條第 2 項の商議員 12 名を 16 名とし昭和 13 年度に於て 2 名、同 14 年度に於て 2 名を増加することゝし次の如く内規変更を承認することゝせり。

第 1 條 本支部に支部長の外左の役員を置く
商議員 16 名、幹事長 1 名、幹事 2 名

5. 關西支部昭和 12 年度收支決算及事業報告別紙(省略)の通り承認することゝせり。
6. 土木報國聯盟より建議に係る時局對策機關の設置並に非常時對策の土木技術者大會開催の件は次回理事會に於て更に審議することゝせり。

第 10 回常議員會 (昭. 12. 12. 20.)

出席者：大河戸會長、新井副會長、關、沼田、榎木阿曾沼、小宅、蒲、河口、高橋、森田各常議員、

眞田前會長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任、糸川編輯主任

報 告

1. 土木學會防空施設委員に次の諸君を追加依頼せり。
鴨下 武君、水谷當起君、藤後定雄君、中澤政次君
2. 地下構造物に於ける鋼材節約調査委員會幹事に小澤久太郎君、瀧山 養君を追加依頼せり。
3. 1 月中役員會及委員會開催日別紙(省略)の通り

とせり。

4. 入退會を別紙(省略)の通り承認せり。

議 事

1. 東北支部昭和 12 年度交付金の増額は昭和 13 年度に於て同支部管内會員を更に 50 名増加することとして 150 円を交附することとせり。

2. 東北支部管内會員 50 名の増加を図るため同支部に對する入會金補助期間を昭和 13 年 3 月末日まで延長することとせり。

3. 東北支部規定附則削除及内規削除、訂正の件は次記の通り承認することとせり。

東北支部規定附則第 9 條削除

同 内規第 1 條の商議員 10 名を 12 名と改む

同 内規第 4 條の大會を總會と改む

同 内規附則第 8 條を内規第 6 條とし、附則第 6 條第 7 條及第 9 條を削除

4. 東北支部昭和 13 年度收支豫算を別紙(省略)の通り承認することとせり。

5. 土木學會規則第 4 條第 3 項を次の如く改正の件を通常總會に附議することとせり。

代表者の員數は 1 級 10 人以内(現行 3 人以内)、2 級 7 人以内(現行 2 人以内)、3 級 3 人以内(現行 1 人)とす。

6. 會費滞納者別紙(省略)に對し定款第 13 條に基きその權利の行使を停止することとせり。

7. 昭和 13 年度本會收支豫算並に昭和 12 年度追加豫算を別紙(省略)の通り承認することとせり。

8. 本會より北支及中支に於ける土木計畫に關し調査員を派遣することとし、派遣の方法、人選、費用の支出方法等は理事會に一任することとせり。

第 11 回常議員會 (昭. 13. 1. 10.)

出席者：大河戸會長、辰馬、新井兩副會長、海老、小澤、金子、蒲、榎木、關、沼田、宮本各常議員、小野寺庶務主任、朝倉會計主任、糸川編輯主任

報 告

1. 北海道支部長に吉町太郎一君當選せられたるに依り之を依屬せり。

2. 土木學會文化映畫委員會の中間報告としてニュース部の發動に關し別紙(省略)の如く報告ありたり。

3. 關西支部第 9 回役員會議事を報告せり。

議 事

1. 通常總會を昭和 13 年 2 月 14 日開催すること

とせり。

2. 通常總會順序及議案(第 23 回理事會と同様付省略)次の如く決定せり。

3. 北海道支部昭和 12 年度收支豫算別紙(省略)の通り承認せり。

4. 關西支部内規第 1 條第 2 項の商議員 12 名 16 名とし昭和 13 年度に於て 2 名、同 14 年度にて 2 名を増加することとし次の如く内規変更を承せり。

第 1 條 本支部に支部長の外左の役員を置く

商議員 16 名、幹事長 1 名、幹事 2 名

5. 關西支部昭和 12 年度收支決算及事業報告別(省略)の通り承認せり。

總 務 部 記 事

第 8 回土木技術者相互規約調査委員會(昭. 12. 12. 9)

出席者：青山委員長、川口、鈴木、竹政、中野各員、藏重、村上兩幹事、小野寺庶務主任

議 事

1. 第 1 回より第 7 回までに於て審議を重ねた木技術家の信條及實踐要項の結論を整理印刷して月下旬、7 月上旬、7 月下旬の 3 回に亘り各委員報告し 9 月中旬までに全委員の意見次の如く回答ありたり。

修正 1、字句修正 1、原案賛成、外全員

2. 中野委員の修正案に基き再検討の上、下記の如く決定し之を會長に報告することとせり。

昭和 12 年 12 月 9 日

土木技術者相互規約調査委員會

委員長 青 山 士

土木學會々長 大河戸宗治殿

本委員會は昭和 11 年 6 月 22 日委員會成立に際し井上會長より述べられたる本委員會設置の主旨に従って鋭意之が完成に努め委員會を重ねること前後 8 回にて別紙草案を得たるを以て茲に及報告候

尙本學會として右草案御採擇の上は會員は勿論廣く社會に之が主旨を徹底せしむる爲、然る可く御處置相度右委員會の希望表明仕候

土木技術家の信條及實踐要項

作製の主旨及方針：本草案は北米合衆國土木學會、技術者相互規約等の如きものも一応参照せしめ其の本方針として次の 2 項目の意を体し併せて現下の我

情に適合し且又技術家への指導方針と云ひ得べきもの
を製作に努めたり。

- (1) 土木技術者の品位の向上, (2) 土木技術者の権
威の保持

適用の範囲: 技術者一般の行爲及職業上の行爲に關
聯するものたり。

土木技術家の信條作製の主旨

20 餘年前の彼の歐洲大戰を契機として急角度の旋回
を爲したる世界の思想界政治界及經濟界は未だに其の
安定を得ずして動搖と混亂との渦中に在り、此の時に當
りて我等は人類の一員として、光輝ある祖國を有する國
民の一員として、將又人類文化の創造に貢獻すべき技術
家の一員として其の立場を明確にし其の歩武を確實に
し識見を新にして相率ひて斯界の進歩向上に努め以て
國家社會に貢獻するの急務なるを痛感す。

因て其の信條を成文となすこと次の如し。

土木技術家の信條

1. 土木技術者は常に技術を通じ國運の進展並に人
類の福祉増進に貢獻すべし
2. 土木技術家は技術の進歩向上に努め其の眞價を
廣く社會に認識せしむべし
3. 土木技術家は眞摯なる態度を持ち相互に徳義を
重んずべし

説 明

1. 技術家が技術を通じ國家社會に貢獻す可き義務
を述べたるものなり。
2. 技術家の技術家としての義務を述べたるものなり
3. 技術家の徳義に關する戒を述べたるものなり

參 考

米國のエシックスの一例に次の如きものあり

1. 祖國に忠實なること
2. 公益の爲に盡すこと
3. 各自の名譽を重ざること

土木技術家の實踐要項

實踐要項案作製の原則

土木技術家の信條を基本とし技術家一般、企業者、請
負業者及顧問の區別により之が實踐要項を定むるもの
とす。

技術家一般

1. 土木技術家は自己の専門的知識及經驗を以て公共
的諸問題に對し積極的に社會に奉仕すべし
2. 土木技術家は學理、工法の研究に勵み進んで其の
結果を公表し以て技術界に貢獻すべし

3. 土木技術家は其の關係する事業の性質上特に公正
を持し清廉を尙び苟も社會の疑惑を招くが如き行
爲あるべからず
4. 土木技術家は工事の設計及施工につき經費節減の
みに捉はれ爲に従業者並に公衆に危險を及ぼすが
如きことなきを要す
5. 土木技術家は個人的利害の爲に其の信念を曲げ或
は技術家全般の名譽を失墜するが如き行爲あるべ
からず
6. 土木技術家は自己の權威と正當なる價値を毀損せ
ざる様注意すべし
7. 土木技術者は其の關係する企業に萬一違法に屬す
るものあるを認めたる時は極力其の匡正に努むべ
し
8. 土木技術家は其の内容疑しき事業に關係し又は自
己の名義を使用せしむる等の事は之を避くべし。

企業者關係

1. 土木技術家は苟も國家の發展國民の福利に背戻す
るが如き事業は之を企図すべからず
2. 土木技術家は工事施行上災厄其他損失に關して
は合理的補償の手段を講ずべし

請負業者關係

1. 土木技術家は施工に忠實にして企業者の期待に背
かざらんことを要す
2. 土木技術家は工事の實施に當り若し設計上の不適
不備を發見せる時は直ちに之が改良又は是正の手
段を執るべし

顧問關係

1. 土木技術家は自己の人格と知識經驗とにより確信
ある技術の指導に努む可し
2. 土木技術家は企業者、施工者の何れに對しても嚴
正事に當るべし

實踐要項の説明

技術家一般

1. 信條の(1)による
2. 信條の(1)及(2)による
3. 信條の(3)による
4. (1)及信條以外の一般的技術家としての立場より
見たる必要事項
5. 信條の(2)及(3)による
6. 信條の(2)により雇主及傭人の兩者に對する注
意事項
7. 信條の(2)及(3)により雇傭さるゝ場合の注意
事項

8. 信條の(2)及(3)により技術家個人への注意事項

企業者關係(企業組織内に於ける土木技術家)

1. 信條の(1)(2)による
2. 信條の(1)(2)及(3)による

請負業者關係(請負組織内に於ける土木技術家)

1. 信條の(3)による
2. 信條の(2)による

顧問關係

1. 信條の(1)(2)による
2. 信條の(3)による

第 11 回防空施設研究委員會 (昭. 12. 12. 14.)

出席者： 眞田委員長、榎木理事、岩崎、鴨下、河口、
菊池、瀧尾、中村、水谷各委員、稻葉、岡
田、町田、村井各幹事、小野寺庶務主任

協議事項

1. 鴨下委員より地下鉄道に關する事項に就き説明あり、次で各委員の意見の交換ありたり。
2. 藤後定雄君を委員に追加依頼することとせり。

土木學會文化映畫委員會 (昭. 12. 12. 6.)

出席者： 金森委員長、金子、澤、五十嵐、片平各委員

本委員會各部發動に關し下記事項を決議せり。

1. 製作部： 映畫會社との提携のため撮影所訪問に決定、日時は委員長に一任のこと、各著名公共團體及著名土木關係業者に趣意書配付の事。

1. ニュース部： 事変のため當分見合すべき事。

1. 普及部： 同上

1. 考査部： 土木文化映畫臺帳作製のため調査を開始す。決定を見、問合すべき団体下記の如し。

鐵道省各建設事務所 鐵道省各改良事務所

内務省各土木出張所 各府縣土木部課

各市役所 各大学土木教室

各請負業者 各土木關係協會、団体

その他

調査事項は、題名、内容の大要、長さ、大きさ、無聲有聲の別等なるも、追つて調査表送付については、その作製を片平委員に一任す。

1. 指導部： 各著名映畫會社に趣意書を配付し、土木關係映畫作製の援助に關する項の發動を決定す。

追記： 12月9日 金森、金子、五十嵐、片平各委員は、新興大泉撮影所を訪問六車所長、小出企畫部長と懇談、製作部及指導部の發動に關して交渉をなし、

好結果を得たり。

12月14日 同盟ニュース部より、金森委員長に談を求め委員長より、本委員會の詳細説明があり、ニュース部發動の必要を生じ、6日委員會におけるニュース部に關する決議は之を取消すこととなれり。

本委員會ニュース部發動に關し金森委員長と日本ニュース實寫映畫聯盟代表者との會談の結果同盟よ下記の如く協力を求め來りしによりニュース部は欣之に應ずることとせり。

昭和 12 年 12 月 17 日

日本=ニュース實寫映畫聯盟

常務理事 平野直彦

土木學會文化映畫委員會

委員長 工學博士 金森誠之殿

拜啓冬冷の候愈々御清榮の段慶賀の至りに奉存候陳者今回貴委員會と御協力の件に關し昨 16 日開催當聯盟理事會に議題として協議の結果滿場一致の承認し即時加盟者全部に對し通告する様決定致候ては將來希望者有之候節は宜敷御協力被下度候右進度如斯御座候 啓具

尙日本ニュース實寫映畫聯盟は全國ニュース映畫を握るもので、ニュースの撮影及その配給に關し日ニュース映畫界に最も重きを爲すものである。

編輯部記事

第 1 回會誌編輯委員會 (昭. 13. 1. 11.)

出席者： 關委員長、稻葉、大岡、大川、太田尾、
崎、菊池、廣瀬、安宅各委員、糸川、中
兩編輯囑託

協議事項

1. 第 24 卷第 1 號所載工事寫眞、彙報、抄録、報に對する謝禮を決定す。

2. 第 24 卷第 2 號へ下記を追加す。

工事寫眞： 國道第 5 號路線萬世橋、全通せる大線及水俣線、全通せる木次線。

彙報： 埋立地の地割計畫に就ての一考察(會、太田尾廣治)。

時報： 國道第 5 號路線萬世橋工事、神都聖地計都市計畫關係決定事項、全通せる大川線及水俣線、全通せる木次線、鐵道省第 26 回保線講話會。

會員の頁：文化と消費。

新刊紹介：鉄筋コンクリート平面と曲面の構造。

3. 第 24 卷第 3 號登載論文を左記の通り決定す。

論説報告：等変速度に適應する全緩和曲線（會. 工. 江藤禮）、禿禿地に於ける植栽に就て（准. 理. 猶原恭爾）
兩端固定せる鋼柱が偏心荷重を受ける場合の彈性破損（會. 工. 結城朝恭）。

彙報：水洗便所増加に對する一考察（准. 川井 保）
梯大橋災害復舊工事概要（會. 工. 三宅發造）。

抄録：Covington の新淨水場、送水管の伸縮設備、
キウエストに至る海を越えての道路、側方荷重を受ける
對稱拱の計算、コンクリート管内の鋼の応力、水底自動
車隧道の各種の工法、引張部材に及ぼす振動の影響、
鋼製タンクに依る淨水法、對重式三鈎拱格納庫、鉄筋
コンクリート拱の彈性変形を考慮せる挫屈安全率に就
て、Funchal 港の防波堤工事、Ruby 堰堤の設計に就
て。

4. 昭和 12 年度優秀論文選定に就き協議し、その
結果を役員會に報告することとせり。

調 査 部 記 事

第 7 回杭の支持力公式調査委員會（昭. 12. 12. 13.）

出席者：金森、當山、黒田、鈴木、坂本、綾、安宅
五十嵐、山内、三好、片平各委員、小野寺
庶務主任

1. 杭の支持力に關する文獻翻譯を下記大学及高工
の学生々徒に依頼する事に決し、早速依頼狀並に分擔
表を發送せり。

大学：東大、京大、北大、九大、日大。

高工：仙臺、山梨、名古屋、金澤。

1. 調査表印刷並に送附を決議し、送附先は各地方
委員宛となす。

1. 次回委員會に於て下記事項を討議する事に決
す。

(1) 文獻翻譯後の處理法、(2) 調査資料の處理法。

日 本 工 学 會 記 事

○昭和 12 年 12 月 20 日日本工學會臨時評議員會を
開催し下記の件を決議せり。

1. メートル法に關する意見書を各省大臣其の他關
係者に提出の件。

關 西 支 部 記 事

第 9 回役員會（昭. 12. 12. 22.）

出席者：高西支部長、島崎幹事長、柴田幹事、萩原
寛、奥中、澤井各參議員、後藤、島兩前支
部長、山本主事

議 事

1. 昭和 12 年度決算別紙（省略）決定
2. 昭和 13 年度大會開催の件
3. 支部内規第 1 條第 2 項変更の件
4. 特別員入會の件
5. 昭和 12 年度事業報告

そ の 他 記 事

○昭和 12 年 12 月 24 日土木學會誌第 24 卷第 1 號
を發行成規の手續を了し全會員に配布せり。

入 會 及 転 格 會 員

會 員 (入 會)

大 谷 昇君 滿鉄奉天鐵路總局工務局改良課
龍 野 祇 一 郎君 關東州廳土木部工務課

加 藤 康 平君 滿鉄奉天鐵路總局建設局築港課
稻 積 豐 二君 札幌鐵道局工務部保線課

准 員 (入 會)

安 藤 虎 四君 東北振興電力株式會社
赤 井 醇君 鐵道省工務局改良課
石 田 一 夫君 小樽市役所土木課
宇 佐 美 貞 男君 盛岐水力株式會社
小 田 善 治君 關東州廳土木部工務課

緒 方 篤君 珠濤川電氣株式會社
及 川 赫君 南洋廳土木課
大 津 弘君 東北振興電力株式會社
岡 部 雄 美君
鎌 田 三 郎君 滿鉄大連鐵道事務所

川 口 治 男君 小樽市役所土木課
佐々木三彦君
志 賀 正 臣君 逓信省電氣局水力調査課
清 水 勤君 山梨縣身延土木出張所
諏訪免 誠君 内務省渡川改修事務所

田中常三君 内務省東京土木出張所
 高田茂君 宮寧水力電気株式会社
 武田要吉君 北海道帝國大學附屬土木專門部
 中村隆之君 廣島市土木部都市計畫課
 西野勇君 成鏡北海道土木課
 野町利人君 北海道廳立苫小牧工業學校
 曳地初太郎君 東京電燈株式会社
 松田清作君 小樽市役所土木課
 松野時男君 内務省東京土木出張所戸田工場

三村忠三郎君 小樽市役所土木課
 三輪達郎君 京城電氣株式会社
 毛利勝二君 内務省東京土木出張所
 森末進君 三井鑛山株式会社
 山口秀幸君 小樽市役所土木課
 山口泰善君 滿鉄大石橋工務區
 山下秋房君 東北振興電力株式会社
 吉田忠君 滿鉄錦縣鐵路局工務處改良科
 若林順作君 東京市水道局下水課

渡部武雄君 東北振興電力株式会社
 上野一郎君 札幌鐵道局帶廣保線區
 小笠原信利君 長津江水電株式会社
 田子和一君 /
 竹田正輝君 札幌鐵路保線事務所
 對馬政見君 札幌鐵道局工務部工事課
 松浦一二三君 札幌鐵路保線事務所
 山田健治君 /

学 生 員 (入 會)

赤澤稔君 北大專門部
 秋篠龍君 南滿工專
 伊藤武彦君 九州帝大
 飯田正治君 北大土木專門部
 石橋多門君 東京帝大
 板倉光三君 九州帝大
 岩田行雄君 名古屋高工夜学部
 遠藤武治君 北大土木專門部
 小笠原到君 九州帝大
 大月六雄君 /
 大坪正典君 /
 大橋代嗣君 北大土木專門部
 太田進君 /
 岡部龍夫君 九州帝大
 荻野憲治郎君 /
 加藤信義君 名古屋高工夜学部
 河西清君 東京帝大
 木村爲一君 北大土木專門部
 小坂正次君 日大工学部
 小林禎典君 東京帝大
 小柳好雄君 日大工学部

澤野正壽君 北大土木專門部
 清水不二夫君 日大工学部
 澁谷源郎君 北大土木專門部
 島田知一君 /
 神勤君 北海道帝大
 鈴木夙郎君 東京帝大
 鈴木宜邦君 /
 鈴山稻次君 九州帝大
 關口龍郎君 北大土木專門部
 側見文夫君 /
 田中倫治君 東京帝大
 田卷昌雄君 /
 高木養造君 北大土木專門部
 高橋吉雄君 東京帝大
 竹内俊雄君 /
 徳留正治君 九州帝大
 徳中省三君 北大土木專門部
 富田泰雄君 九州帝大
 富永正敏君 /
 中瀬弘君 神戸高工
 中野恭平君 北大土木專門部

成岡昌夫君 京都帝大
 西村和夫君 九州帝大
 西脇等君 北大土木專門部
 野澤盛満君 日大工学部
 波多野信正君 北大土木專門部
 服部忠雄君 北大土木專門部
 春田忠雄君 京都帝大
 樋渡正美君 九州帝大
 平川明之君 /
 逸見正則君 京都帝大
 溝口博君 名古屋高工
 宮崎正元君 政工社高工
 森下茂久君 日大工学部
 吉越盛次君 東京帝大
 吉田他喜史君 日大工学部
 阿部勇祐君 京都帝大
 池田穰君 /
 石谷實君 /
 杉和也君 /
 内藤定雄君 /

會 員 (転 格)

井上五郎君 株式会社昭和製綱所

本間繁雄君 滿鉄北鮮鐵道事務所

准 員 (転 格)

井口敬太郎君 朝鮮總督府鐵道局建設課

小杉正男君 内務局仁川港修築事務所

角田博一君 朝鮮總督府鐵道局建設課

土 木 学 會 々 員 數

(昭. 12. 12. 20. 現在)

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	賛 助 員	合 計
3014	3088	666	22	21	6806

會 員 工学博士 杉浦宗三郎君 は昭和 12 年 12 月 10 日逝去せらる。本會
は弔詞を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表す。

會 員 長田誠三郎君 は昭和 12 年 12 月 27 日逝去せらる。本會は弔詞を靈
前に呈し恭しく哀悼の意を表す。

會 員 田中隆作君 の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す。

准 員 奥田清一君、藤村善雄君、渡邊正男君 の訃報に接す、本會は恭しく哀
悼の意を表す。

會 告

本會々員にて今次の事変に際して出征せられる方は出征中會費免除の手續きを採りますから至急當
 學會まで御通告下さい。本會は下記応召會員各位の武運長久を祈る。

応 召 會 員 氏 名

(會 員)

青木 信夫君	安藤 四良君	井上 清太郎君	飯田 房太郎君	浦田 清志君
梅澤 景秀君	小谷 金馬君	大島 省三郎君	奥田 秋夫君	尾錢 峰夫君
國澤 舜二君	小倉 田一郎君	後藤 禎藏君	齋藤 四郎君	坂野 昇君
篠原 武司君	清水 雄吉君	瀬能 三郎君	田中 孝君	富樫 凱一君
長友 一 二君	内藤 範壽君	丹羽 良彦君	山岸 誠君	

(准 員)

青木 光君	伊藤 一郎君	伊藤 信男君	井内 萬治君	井上 忠熊君
池戸 貫三君	石尾 良一君	石倉 寛治君	板垣 正男君	一之瀬 喜繁君
今川 周一君	乾 市太郎君	宇佐 美勇司君	上原 要三郎君	内田 襄君
遠藤 作次君	小澤 辰喜君	大竹 源太郎君	大槻 眞弘君	大村 繁三郎君
大森 蕃二君	岡村 貞男君	岡本 恒熹君	沖田 二郎君	奥山 幸雄君
鹿熊 理三君	片岡 市郎君	金澤 義之介君	金子 輝男君	金子 軍作君
鎌田 昌俊君	蒲原 正吉君	神森 五郎君	川勝 常次郎君	川崎 毅三郎君
川島 農一君	河原 忠次君	河村 莊君	龜甲 谷貞三君	岸 忠男君
北村 英太郎君	久保 正君	熊耳 爲男君	桑崎 正範君	桑原 於菟葉君
小高 與一郎君	小土 井善雄君	小林 嘉道君	近藤 愛知君	佐藤 源仁君
佐藤 眞一君	櫻木 與一君	澤田 正一君	澤田 實君	設樂 藤雄君
四十 萬小祐君	清水 清三君	須藤 正利君	鈴木 駿一郎君	清野 一水君
田淵 榮治君	田村 勳君	高井 壽吉君	高島 三郎君	高野 義雄君
高橋 咲保君	高橋 正一君	玉井 茂男君	筑瀬 懋君	月 邨 徳彌君
寺田 功君	豊田 實君	中津 海俊雄君	中村 正君	中村 泰樹君
中村 吉光君	永井 良男君	永島 徳君	能登 富五郎君	乘富 士郎君
平井 敦君	平野 勳君	廣田 賢治君	福島 公三君	福島 保君
福島 峰夫君	藤田 三士君	藤森 謙一君	藤本 輝文君	別所 正夫君
堀 修一君	堀内 恭一君	本徳 壽雄君	増田 正次君	松垣 光君
松橋 作藏君	松田 昌治君	松本 敏雄君	丸山 和太郎君	三好 雄次郎君
三輪 銀吾君	南 武男君	村井 義英君	安田 恒夫君	山内 新之助君
山岸 正應君	山田 安綱君	山中 保君	山本 三郎君	山本 保君
山本 芳男君	湯澤 貞夫君	吉田 時二君	和田 豊君	渡邊 有友君
渡邊 嘉太郎君				

(学 生 員)

小川 九十九君	金出 地史朗君	宮崎 義成君	杏 芳太郎君	米澤 佳年君
和田 正一君				

昭和 13 年 1 月 17 日

土 木 学 會

會 告

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数敷恐れ入りますが、御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員		會 員	
荒川 參太郎君	稍 葉 彌 吉君	木村 貫一郎君	小 林 源 次君
森 増 能君	山本 保之助君		
	准	員	
和 泉 高 嚴君	池田 乙次郎君	池田 角太郎君	緒 方 政 雄君
大 森 鶴 吉君	佐 藤 與 吉君	徐 三 善君	栗 田 忠 治君
小 林 義 雄君	野 口 金 太君	關 佳 夫君	曾 我 進君
船 橋 貞 一君	高橋 理三郎君	本 橋 二 郎君	吉 見 胤 陸君
中野 順太郎君	難 波 壽 一君	劉 作 檀君	濱 崎 禎 四 郎君
平 本 源 太 郎君	水 原 譽 文君	宮 田 肇君	横 田 清 治君
石 原 三 郎君	齋 藤 賢 策君	多 田 安 三 郎君	

時報、會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- 土木工事の計畫、設計、施工の進捗、竣功の狀況、工費等のニュース
- 土木工学界の内外学協會、調査會、委員會等の設立、調査研究事項並に報告其他會議、催物の簡單なる紹介
- 官廳、會社、公共團體の組織事業に關するニュース
- 法規、示方書、規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学、土木工事、土木學會、土木技術社會に對する批判、時評、感想、希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。

會 告

図書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、 自7月21日至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時、
自1月4日至7月20日

但し 日曜日及祭日休。

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す)



(直径 14mm)

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1 月~6 月)	第 2 期分 (7 月~12 月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	學生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます(旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい)。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXIV, NO. 2, FEBRUARY. 1938.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	17
Papers,	
Impediment Modulus of Bacteria in Sand-filtration (Experimental Filtration of Collon Bacillus). <i>By Tomihisa Iwasaki, C. E., Member.</i>	127
On the Construction Work of Plain Concrete Arch in the Ōsaka Underground Railway. <i>By Saburō Mitui, C. E., Member.</i>	143
On the Active Earth Pressure for the Vertical Wall having the "Pfahlrostgründung" <i>By Hisao Kudō, C. E., Member.</i>	151
Notes on Matters of Interest,	167
Abstracts of Selected Articles,	185
Current Notes,	213
Our Members Say,	219
Patent News,	223
New Publications,	225

OFFICE

No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

正誤及訂正表

橋脚による河床洗掘に関する実験的研究
(第24巻第1號所載)

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
24	上 2	加工法的	施工法的	38	表-4	節通過	節通過
"	脚註 1)	P eiler	Pfeiler	39	表-5(a)水深	1.025	0.052
25	上 15	何も水は	何れも水は	"	{表-5 (b)流水幅	0.820	1.820
28	上 7	$v_0 = \xi_1 \sqrt{2a}$	$v_0 = \xi \sqrt{2a}$	40	表-6 G. 限界流況	(b)	(a)
"	表-2	$v_0 \times 2v_2, v_0 \times 1.5v_1,$	$v_0 \div 2v_2, v_0 \div 1.5v_1,$	42	図-12 表題	k_s, k_f と	k_s, k_f と
"	"	$v_2 \times 2^3/v_1$	$v_2 \div 2^3/v_1$	47	表-10, t_f' 上3	4.	4.5
31	上 11	(1) に述	1. に述	50	上 9, 下 2	t_f'	t_f'
"	下 8	詳細の	詳細な	"	上 19	如く, もの $A_m K_2 K_f'$	如く, $A_m K_2 K_f'$
33	上 12, 13	$m < 1/1000$	$m > 1000$	51	上 1	t_f'	t_f'
"	上 13	$1/1000 < m < 1/500$	$1000 > m > 500$	"	上 12	全円橋	兩円橋
34	脚註 28)	Nürnberg	Nürnberg	55	脚註 41)	Rhei	Rhein
35	下 14	水流変化	水位変化	"	" 47)	Podejuchu.	Polejuch."